



**国際政治経済学部
国際経済学科**

在学生 4年 吉田 光佑

自らの使命と信じて
コーヒー生産者と消費者の”架け橋”を目指す

高 校時代に東ティモールを訪れた経験を基に、コーヒーサークル「青山珈琲愛好会」を創設した吉田さん。2021年11月には東ティモール産の豆に特化したコーヒーショップを立ち上げました。高校生だった当時、現地で目にしたのは、コーヒー生産に取り組む人々の誇り高き姿。その裏に、さまざまな挑戦などを感じ取ったそうです。「生産者の努力やコーヒーの品質について正しく消費者に伝え、生産者と消費者をつなぐ“架け橋”にならなければならないという使命感を抱きました」と吉田さんは語ります。これまで出会ってきた生産者の人々がより豊かに暮らせるよう、そして東ティモールコーヒーの味のバラエティがより豊かになるよう、夢を実現させたいと熱く締めくくっています。



**総合文化政策学部
総合文化政策学科**

在学生 4年 大岩 史織 / 3年 佐藤 有真

“文化の創造”を理念に
創造の可能性を追究する

大 岩さんは総合文化政策学部の学生について「知りたいこと、経験したいことに対して自由に、貪欲に取り組んでいる人ばかりです。個々人の取り組みの差異が、文化に対する独自の視点や考え方を築き上げることを可能にしているのだと思います」と自身の考えを述べています。大学院へ進学する大岩さんはこの先、来館者の主体性を重視したミュージアム展示の在り方を考察していく予定です。佐藤さんは「本学部でステージの企画運営を学べると知り、高校での経験をより深化させたいと考え入学しました。教員も学生も研究対象が幅広く、多くの選択肢の中から最も興味のある研究テーマを探することができます」と話してくれました。



理工学部 物理科学科

教員・学生 教授 坂本 貴紀 × 博士前期課程2年 畑 泰代 / 4年 鴨志田 一真

速報実証衛星ARICAの開発および
その打ち上げを振り返る

2 021年11月、坂本研究室で開発された速報実証衛星「ARICA」がJAXAの革新的衛星技術実証2号機の実証テーマの一つとして、イプシロンロケット5号機で打ち上げられました。ARICAは学生を中心に開発・運用される衛星です。坂本先生は「さまざまな切り口で宇宙に関する研究ができます」と宇宙物理学にちなんだ学びの魅力を説きます。人工衛星の開発から運用まで携わりたいと考えていた院生の畑さんは「開発の初期の段階から打ち上げ、運用まで関わったのは、とても運が良かったです」と喜びを語ります。学部生の鴨志田さんは、ARICAからの送信情報を変換し、表やグラフで表現するプログラムを作成。「自発的に取り組める方にはお勧めです」と研究の妙味を語ります。



**社会情報学部
社会情報学科**

在学生 4年 笹田 桃

新聞編集委員会での経験が学生生活を彩り、
就活へとつながった

大 学の直属団体のひとつである「新聞編集委員会」では、学生が主体となって『青山学院大学新聞』を発行しています。もともとモノを書くことが好きだったという笹田さんはマスコミへの興味もあり、大学入学後は新聞編集委員会に所属。企画から執筆までの一連の作業をすべて手掛け、他の学生と共に青山学院大学新聞を作り上げてきました。笹田さんは委員長として活動の幅を大きく広げ、その経験を生かし、納得できる進路を選びました。「新聞編集委員会での取材で培ったコミュニケーション能力や、新聞づくりのスケジュール管理などの経験を評価していただき、内定に至ったのかもしれませんが。新聞編集委員会で、いろいろな経験をすることができて良かったです」と語りました。



**地球社会共生学部
地球社会共生学科**

教職員 教授 古橋 大地

災害時に地図情報で被災地を救う
サーバント・リーダー

古 橋先生は戦禍に苦しむウクライナを支援するため、180万人の避難者が滞在するポーランド等の最新地図を作製しています。ゼミナールに所属する学生らは最新の航空写真を基に、避難所やその周辺の地図情報を世界中で広く利用されている地図データ「オープンストリートマップ」に書き込みます。この作業の発端は、2010年に起きたハイチ地震にあります。被災地の地図を作る活動に参加した経験が、今に生かされていると古橋先生は語ります。災害ドローン救援隊「DRONEBIRD」を立ち上げた古橋先生は、実社会の人たちと現場で共に活動することの重要性を語ります。「現実を知らなければ机上の空論になりかねません。そして、その経験を誰かと共有することが大切です」



**コミュニティ人間科学部
コミュニティ人間科学科**

教員・学生 教授 安井 年文 × 3年 目片 将大

地域の実情を知り、
課題解決の力を育む地域実習

2 019年に開設されたコミュニティ人間科学部では、地域の社会と人々に関わる実践的な対応力を育むため「地域実習科目」を設けています。学生は全国約30カ所から実習先を選び、約30時間の地域活動を体験します。安井先生は「地域活性化に向けて行動力を身に付けてほしいです。コミュニケーション力が高い青学生らしさを発揮し、卒業後も全国各地での活躍を期待しています」と語ります。陸上競技部の選手として駅伝を中心に活動している目片さんは、子どもたち主体の冒険遊び場「ドリームプレイウッズ」を実習先に選択。自主性に任せる運営方針に共感し、「地域実習には自分の将来に生かせる学びがあります」と実習先での発見の他、今後の抱負についてもふれています。

アオガクで、 カガヤク。

真剣に学び、没頭する



詳しくはこちら

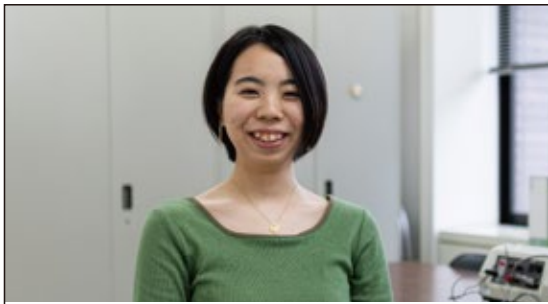


**文学部
フランス文学科**

教員・学生 准教授 福田 美雪 × 3年 酒井 李奈

19世紀フランスの文学と美術の関係を学び、
文化への感受性を磨く

福 田美雪先生は「本ゼミナール（ゼミ）では、19世紀に描かれた、絵画や挿し絵、写真などのイメージと、詩、小説、批評などのテキストの結びつきを通して、複雑な時代背景を読み解くことを目指しています。本学科の学生たちは、本質的に本が好きで、高い読解力と豊かな想像力を兼ね備えていると感じています。言葉に関する感受性が高く、自分の問題意識と読んだものを結びつけて論ずることが上手で、私も楽しく授業を行っています」と語ります。ゼミ生の酒井李奈さんは「福田先生はとても親しみやすく、『しゃべりはじめたら止まらない』くらいに、ゼミは楽しい雰囲気です。自由な意見が尊重され、考え方の違いがとても面白く感じられます」と笑顔を見せました。



**教育人間科学部
心理学科**

在学生 3年 吉田 麻衣奈

人を助けたいという変わらない思いを胸に
追いかける心理師という夢

「私 は、心身の健康を保ちながら受験勉強へのモチベーションを維持する方法を考えることで、ストレスを和らげ、気持ちを楽にすることができた経験を通して、『こころと身体の関係』や『ストレス対処の方法』について学びを深めたいと考え、心理学科への進学を決めました。困っている人を近くで支える公認心理師になることが目標で、特に興味のある医療分野と教育分野で、学んだ知識を生かしたいです。大学卒業後は大学院に進学し、資格の取得を目指します。また、常に人の“こころ”に寄り添えるよう、さまざまな経験を通じて、さらに自分自身を見つめ、理想の公認心理師像を追求したいです」と吉田さんは語りました。



**経済学部
現代経済デザイン学科**

在学生 4年 柏倉 元太

起業の挑戦を支える経済学の学びから得た
思考法と他者貢献への思い

柏 倉さんは本学で学びつつ、SEOを中心にSNSやYouTubeなどを手掛けるウェブマーケティング会社「オックス」を設立し、会社運営を行っています。中でも力を入れているのが、2019年に立ち上げたウェブサイト「コーヒー豆研究所」です。大好きなコーヒーの素晴らしさをより多くの人に伝えたいと、柏倉さんは意気込みを見せます。「経済学部で学んだことや、宮原勝一先生のゼミで、新型コロナウイルス感染症拡大が日本経済に与えた影響について研究したことが、メディア事業の価値を見出すことにつながりました。将来やりたいことが見つからないという人は、まずは少しでも興味があることを思い切ってやってみることが大事です」と柏倉さんは語ります。



法学部 法学科

教員・学生 教授 申 恵丰 × 4年 宮田 祐 / 3年 田中 美有

国際人権法を国内でどう活かすか

日 常生活でもさまざまな差別を目にすると話す申先生。人権問題については「当たり前とされてきた考え方にとらわれず、国際社会が築いてきた普遍的な人権基準に照らして考える視点がとても大事です」と強調しつつ、国際人権法については「国内法と重なる『人権問題』を扱うという意味で、身近な分野」と語ります。ゼミ生の宮田さんは「人権問題には決まった答えがないからこそ考え方も多様であり、意見が異なったときにも互いを受け入れる姿勢が必要」であることを学んだそうです。またゼミ生の田中さんは「自らの権利のために努力できるのであれば、他の困っている人のためにも自分ごととして捉えて具体策を考えていきたいです」と語ります。



**経営学部
マーケティング学科**

在学生 2年 代田 暁 / 3年 速水 一樹

マーケティングの
理論と実践知を身に付ける

本 学科を選んだ動機について代田さんは「幼少の頃から習っていたバレエを通じて、舞台宣伝用のポスターや広告が集客にどのような影響を与えるのか興味が湧き、広告やマーケティングを詳しく学んでみたいと思うようになったのです」と語ります。PBLの授業では「協力企業から提示された課題に対して、学生がグループで課題解決に取り組み、企業で働く方々の声を通して、企画を実際に展開する上での新たな視点を養えました」と振り返ります。また速水さんは、「本学科には果敢に挑戦する人が多く、良い刺激を受けて自身も積極的になり、留学や大学院を志すようになりました。実務を見据えた理論を学び、奥深いマーケティングの世界を追究したいです」と語りました。